

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 2 8 年度第 1 回相模原市市史編さん審議会				
事務局 (担当課)		博物館市史編さん班 電話 0 4 2 - 7 5 0 - 8 0 3 0				
開催日時		平成 2 8 年 8 月 2 3 日 (火) 午後 2 時 ~ 4 時				
開催場所		相模原市立博物館 小会議室				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	6 人 (博物館長 他 5 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 平成 2 7 年度市史・町史編さん事業の実施状況について</p> <p>(2) 平成 2 8 年度市史・町史編さん事業について</p> <p>(3) 相模原市史近代資料編について</p> <p>(4) その他</p> <p>4 閉会</p>				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 あいさつ

佐藤博物館長あいさつ

樋口審議会会長あいさつ

3 議 題

市史編さん審議会規則に基づき、樋口会長が議長となり、議事が進められた。各議題については、配布資料に基づき職員が説明し、それぞれ質疑応答を行った。

(1) 平成 2 7 年度市史・町史編さん事業の実施状況について (資料 1 参照)

町史編さん事業の文化遺産部会活動状況、祭事調査の中で、「どんど焼き」という呼称を使用しているが、かつて地元で使われていた「団子焼き」という呼称で記録すべきではないのか。

かつては「団子焼き」と呼ばれていたが、現在、津久井地域ではおおむね「どんど焼き」の呼称が大勢を占めていることから、「どんど焼き」を使用したものです。このような呼称の変遷についても文化遺産編の中で記述をしていく予定です。

同じく、祭事調査の対象としている村芝居等は、現在も行われているものか。

青野原長野地区では村芝居が3年に1度開催されているのをはじめ、どの行事も、現在存続して行われているものです。

相模原市史、津久井町史の編さん事業における、困難な部分や課題はどのような点か。

市史近代資料編の編さんにおいては、膨大な数の資料の内容を確認したうえで1,500点程度選択し、更に選択された資料を活字化し内容を精査する筆耕作業を経て、最終的な掲載資料数を約500点まで絞り込むという地道な作業工程の為、大変時間がかかります。平成28年度中の刊行に向けて、作業のペースアップを迫られている状態です。

町史文化遺産編の編さんにおいては、専門部会の発足(平成26年度)から刊行予定(平成29年度)までの期間が短く、さらに調査にあたっては相手方との日程調整等を要する為、事業の進行管理に苦慮する場面が多くあります。

町史編さん事業の普及事業にある町史講演会について、評判はどうか。

毎回、会場にて来訪者向けのアンケートを実施していますが、講演の内容につ

いて、「わかりやすい」「興味深く聴いた」との回答が多く、おおむね好評です。また、地元津久井地域在住の方以外にも、市内他地域や他市からおいでいただいている方もいらっしゃいます。

(2) 平成28年度市史・町史編さん事業について(資料2参照)

相模原市史・津久井町史の普及について、学校現場等と連携し、児童・生徒が市史・町史に関する興味を深めるようにすべきと考える。

同様に、公民館、図書館等に対しても、連携を深めていくべきである。

現在、博物館事業として、生物担当学芸員が蚕についての講座、歴史担当学芸員が鎧についての講座を、学校と連携して開催しています。市史・町史事業についても、連携について検討していきたいと存じます。また、既に多くの公民館に対しては、市史編さん班職員を講師派遣する形で相模原の歴史関連の講義を行い、連携を深めている状況です。

市史・町史講演会を行い普及に努めているが、毎回のテーマはどのように決められているのか。また、講演会の講演内容を記録に残すようにしてはいかがか。

講演会は、市史・町史の発刊を記念して開催する側面もあり、講演のテーマは講演者(執筆者)と事務局が相談して決定しています。

また、市史講演会については、従前よりその講演記録を市史ノートに掲載する場合が多く、平成28年度市史講演会の内容も市史ノート第14号に掲載予定です。町史講演会については、講演記録を残すことは現在行っておりません。

(3) 相模原市史近代資料編について(資料3参照)

近代資料編の編さんの過程で調査した膨大な数の資料の内、掲載されなかった資料はどうするのか。

掲載候補として選択された約1,500点の資料の内、実際に掲載される資料は約500点と予想されます。掲載されなかった資料についても、すべて活字化されるので、資料所有者の了解を得ることが前提となりますが、広く市民の研究等に役立てることができるよう、閲覧に供したい、と考えています。

第1章第2節の節名として「相武民権」という用語が使われているが、細節名で使用している固有名詞では「武相懇親会」「武相銀行」などの用語が存在する。あえて「相武民権」という言い方を使用するのはなぜか。

民権運動が相模地域を中心に盛り上っていたとの認識をもとに、執筆者が独自に「相武民権」という用語を使用しているものです。用語の説明は、解説に記述する予定です。

平成27年度第2回の当審議会で、第9章第7節で「戦時下の暮らし」について掲載することになっていたが、どのような扱いになったのか。

編さん作業を進めていく過程で、当該項目については第8章との重複部分が多く見られる為、第8章において掲載していくことになったものです。

刊行計画においては、大正2年から昭和20年までを対象にした資料編となっているが、明治期の資料についても掲載する理由はなぜか。

平成13年度策定の相模原市史続編編さん基本構想において、原則として近代資料編は大正2年から昭和20年までを対象にすることとなっております。しかし、時代の流れやその時代の社会構造を明確にする為には、明治期についても触れることが必要であるという、近現代部会の判断に沿った方向で編さんを進めております。この点については、近代資料編序章において説明する予定となっております。

(4) その他

平成29年度に市史別編及び津久井町史文化遺産編の刊行終了後の市史事業のあり方は、どのようになるのか。

相模原市史続編の編さん事業は平成29年度の別編の刊行、津久井町史の編さん事業も同年度の文化遺産編の刊行をもって、完結することになります。それ以後の市史事業のあり方等については、今後調整していくこととなりますが、当審議会の皆様からのご意見も伺っていきたいと考えております。

以 上

相模原市市史編さん審議会委員出欠席名簿

(任期：平成27年7月31日～平成29年7月30日)

平成28年8月23日 平成28年度第1回審議会 出席者名簿

氏名	関係役職名	8月23日出欠
小川 紳夫	市民公募委員	出席
岡田 万里子	学識経験者(桜美林大学准教授)	出席
高村 敦子	同上(元相模原市立中央中学校教諭)	出席
中村 洋子	同上(大野南公民館長)	出席
長澤 敬子	同上(元相模原市立くぬぎ台小学校長)	出席
奈良 雅之	同上(元相模湖町立北相中学校長)	出席
樋口 雄一	同上(元神奈川県立公文書館郷土資料課長)	出席
平澤 哲周	市民公募委員	出席
守屋 浩之	学識経験者(津久井湖城山公園自然環境に関する連絡会委員)	出席
矢野 英明	学識経験者(帝京大学教職大学院客員教授)	出席